

令和2年度 学力向上指導改善プラン

武庫小学校長 松田 文貴

学校教育目標		学びあい 認めあい 高めあう 児童の育成					
推進主体		管理職と研究推進担当を中心に 学力向上推進委員会を設置					
学力に関する前年度の状況・経年の課題等							
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語・算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆正答率が全国平均を大きく上回る領域と設問によって差がある領域に分かれた。特に、書くことの領域では、全ての設問で全国平均を上回っている。 ◆国語の学習への関心・意欲・態度と言語についての知識・理解・技能の項目では全国平均を下回っており、ほかの項目と比べると課題が見られた。 				
		算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ◆領域別では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において、全国平均より上回っていた。しかし、選んだ理由を書くような記述式の設問や短答式であるが理由を考えたりする設問の場合は、正答率が低くなっている。 ◆「図形の応用や量と測定」の設問では、全国平均より正答率が低く、課題がある。どちらも文章を読み取って、それをもとに答える問題ができていない傾向がある。必要な情報を取り出して解くような問題に数多く取り組ませ、必要な情報を的確に選択できるスキルを身につけさせる。授業の中では、ふきだし法の取組みを継続し、思考の過程を言語化していく。 ◆図形などの単元では、具体的に動かしたり、かいたりすることを多く取り入れ、実感を伴った理解をさせていくようにする。 				
学力向上に慣れる学習習慣	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◆テストにおいて、記述での回答を要する設問において無回答の児童が各学年数名いる。	◆ベアトークで、自分の意見を言える児童が増えてきつつあるが、何をどのように話せば効果的であるのか探っていく必要がある。 ◆また、全体の場で自分の考えを積極的に説明する児童は限られている。 ◆板書を写すだけでなく、ふきだしを活用して自分の考えが見えるノート作りに取り組んでいきたい。				
	授業等からうかがえる状況(各教科)						
研校修内の研究状況	校内研究の状況	◆「自ら考え、共に高め合い合える子どもへ」という研究テーマを実現するため、算数のふきだし法の探究を進めていく。その中で、子どもの思考を可視化するための手立てを考えていく。	◆「自ら考え、共に高め合い合える子どもの育成」という研究テーマに沿って、子どもたちがわかった・できた・つながったと実感できる授業の構築を目指す。				
	校内研修の状況	◆児童の生活背景や学力調査の結果をもとに、課題に対して個に応じた指導ができるように職員で共通理解する場を持つ。	◆児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。				
家庭連・携校種間	家庭・地域等の状況	◆児童の生活背景を十分に把握したうえで、児童理解に努めるとともに家庭学習や適切な生活習慣などを身に付けられるように保護者との連携を大切にしていく。	◆保護者アンケートで「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。				
	小・中における教科連携等の状況	◆オープンスクールの参観、中学校の教師による(理科・外国語)が実施されている。また、生活指導担当教員での小中共同研修や特別支援学級の交流会が開催されている。	◆年間2回、中学校の教師を招いて出前授業を行う。				
		4月	10～11月	2～3月			
		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	中間評価	年度末評価	
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		評価
学力向上に慣れる学習習慣		○様々な言語活動を通して確かな言葉の力を育成することができるよう授業改善を図る。全校で取り組んでいる「俳句づくり」や、成果物を発表する場を意図的に仕組み、児童の言語感覚を高めていく。 ○物語や説明文で一つの教材にじっくりと触れ、言葉にこだわって読み深めて読解力を高める。 ○読書活動の充実を図る。	○新聞や学びがみえるノート、成果物などを交流できる機会や場を設定していく。 ○月に一度俳句を書き、神戸聞社に投稿する活動の継続。 ○質問紙や学校評価アンケートで「読書が好き」「よく読む」「読む」児童の割合が昨年より上回る。	○言葉に着目して読むなど物語の読み方や思考ツールを学ぶ機会をとり、根拠をもとに自分の考えを書く活動に取り組む。 ○学校司書と連携し、学校図書館を活用した学習を進める。 ○月1回 読書の日を設定して、家庭での読書習慣付けを促す。			
		○基礎的・基本的な練習問題に繰り返し取り組み、数や計算の知識、技能の定着を図る。 ○算数科の校内研究を充実させ、教員一人ひとりの授業力の向上に努める。 ○算数科の授業で取り入れている「ふきだし法」を活用・充実することで、自分の考えを持たせ、思考力を高める。 ○図やグラフについて、具体物を操作したり、数値の意味を考え意見を出したりする場面ではベアトークなど、思考を揺さぶるような授業づくりに努める。	○学期始めのチェックテストで、個々の成長を見取り、週5日毎日10分の「のびのびタイム」に自分で課題を選んで取り組む。 ○児童アンケート調査で、「自分の考えをノートやワークシートに書いていますか」「いろいろな考えを友だちと出合っていますか」の肯定的な回答を増やす。	○本校独自のチェックテストを実施し、児童一人ひとりの課題を年度始めに把握し、個に応じた指導に活用する。 ○週5日の「のびのびタイム」を有効に活用し、学年末に三田市算数検定を行い、基礎的な学力の定着を図る。 ○新学習システムの指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。「ふきだし法」を活用して自分の考えをノートに書き、他者との交流へとつなげる。 ○「まず」「次に」「だから」「そのわけは」「これによって」など筋道立てた言葉を低学年から丁寧に指導し、リレー説明、なりきり説明、小グループでの交流など、自分の考えを伝える練習ができる場を多く設定する。			
学力向上に慣れる学習習慣		○問題解決の過程を筋道を立てて、説明することができる。	○ノートやホワイトボード、黒板などのツールを活用し、式や図、表などを使った話し合いを授業の中に意図的に組み込む。				
		○ベアトークの持ち方やふきだしを活用したノートづくりの充実を図る。	○ふきだしを使って、思考の過程が見えるノートづくりができる。 ○相手の考えに質問することができる。	○ノートコンテストなどに取り組み、思考の過程がよく分かるノートに対する価値づけを行う。 ○ベアトークを行う際には、相手の発表に質問をするなどして、活発に行えるようにする。			
研校修内の研究状況		○低学年から、タブレットなどのICT機器を各教科で活用する。	○単元を通じた学習計画や授業のめあてを立て、見直しを持ち、それに沿って学習を進めることができる。	○単元計画やめあてを見えるようにし、見直しを子どもたちと共有する。 ○単元や1時間の学習の計画の中に自力解決の時間を位置づける。			
		○児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。	○保護者アンケートで「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。	○家庭学習の手引きを作成、発行する。			
研校修内の研究状況		○「自ら考え、共に高め合い合える子どもの育成」という研究テーマに沿って、子どもたちがわかった・できた・つながったと実感できる授業の構築を目指す。	○児童アンケートで、「よくわかる」「わかる」「あきらめないで取り組む」などの項目で昨年度より上回る。	○年4回、講師を招聘して校内研究授業を実施する。 ○年2回 算数科を中心に実践交流会を実施する。			
		○児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。	○児童理解に関わる校内研修会を定期的に開催する。	○定期的に研修会を開催し、児童理解や支援方法、支援体制を検討する。			
家庭連・携校種間		○家庭における学習習慣を確立する。	○保護者アンケートで「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。	○家庭学習の手引きを作成、発行する。			
		○小・中の連携を行い、スムーズな校種間の接続を図る。	○年間2回、中学校の教師を招いて出前授業を行う。	○3学期に中学校の授業を体験し、中学校への不安感を減少させる。			